

つながれ和泉っ子

令和4年4月28日

～人と社会と未来の自分～

和泉

5 月号

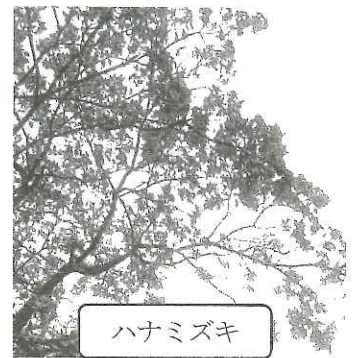
<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

平和への願い

校長 中澤 道則

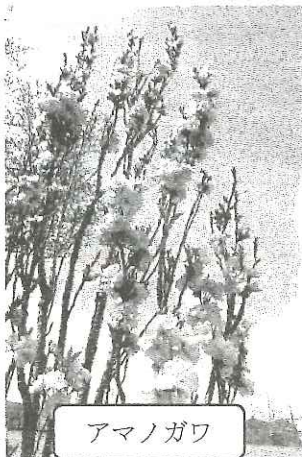
私が住んでいるまちの遊歩道ではサクラの季節が過ぎるのを待っていたかのようにアメリカハナミズキの宝珠のような蕾がほころび始めました。この「サクラ」と「ハナミズキ」の間にこんな話があるのを御存じですか？

作家で写真家でもあるエリザ・シドモアは、明治時代中頃、日本に度々訪れた親日家でした。特にエリザは日本のサクラの美しさに魅せられ、ワシントンに桜を植樹することを提案しました。その提案はその時の大統領夫人の支持を受け、1912年、実現されました。横浜港から船で運ばれてきた3000本のサクラはワシントンのポトマック河の河畔に植えられ、今でも多くの人々の目を楽しませてくれています。そのお礼として1915年、アメリカから送られてきたのが60本のアメリカハナミズキでした。当時は第1次世界大戦の最中。サクラとハナミズキは日米友好の証とされました。しかし、その後、日本とアメリカは日中戦争を経て太平洋戦争へと突入。日米の「平和への願い」はもろくも崩れていったのでした。太平洋戦争に入るとハナミズキは「敵国の木」として次々に切り倒されていきました。現在、当時贈られた原木は東京園芸高等学校に残されているだけです。



ハナミズキ

似たような話としては太平洋戦争前の1927年にシドニー・ギューリック博士の提案で日本に贈られた1万體以上の「青い目の人形」の話があります。そのお礼として日本からは「答礼人形」が送られました。この「親善人形」の交流には渋沢栄一が尽力したことで知られています。しかし、青い目の人形もまた、太平洋戦争中に焼かれたり埋められたりして、現在残っているのは341体にすぎません。



アマノガワ

校庭では「フジの花」や、50周年記念に植樹した「アマノガワ」がきれいに咲いています。この美しい「風景」を安心して楽しむことのできる平和な世の中がいつまでも続いてほしいと願うばかりです。

いつの時代にも人は安心して豊かに生活することができる世の中を願っています。横浜市の人権教育の目指すところは「誰もが、安心して、豊かに」です。今月も子ども達が安心して、豊かに学校生活を送ることができるよう教職員一同、努めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、今月も引き続きご理解、ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。